

「高度メディア社会の生活情報技術」

平成 13 年度採択研究代表者

高野 明彦

(国立情報学研究所ソフトウェア研究系 教授)

「連想に基づく情報空間との対話技術」

1. 研究実施の概要

本研究の目的は、「連想の情報学」の基礎研究を行い、文書情報空間に奥行きと安心感を与える対話技術を構築することである。本研究は5年計画で実施する予定であり、最終的には、(1)連想を刺激して情報空間の内容的概観や情報の文脈(現在位置)の直観的把握を助ける「連想地図 (Associative Atlas of Cyberspace)」と、(2)記述レベルの異なる多層的な文書群を動的に関連づける「理解支援リンク」技術を開発して、ユーザが理解度に応じて平易な入門的解説から高度な専門的記述までを自在に渡り歩く手段を提供し、電子化された情報空間での新しい「読書環境」の実現を目指す。研究成果は、多様な書籍コンテンツに適用して有効性や実用性を評価する。

本年度は、異分野にまたがる参加研究者間の新しい連携の可能性を探るため、セミナー形式の研究集会を数回開催し、各自の研究アプローチについて議論を深めた。今後、共通の研究対象とする書籍コンテンツについての検討を行い、広い意味での情報技術関連書籍をターゲットとすることとした。具体的なタイトルとして、情報科学専門辞典1冊、大学講座シリーズ 30 冊、新書 60 冊を選択し、それらの電子化を発注した。共同研究環境の整備のため、汎用連想計算エンジン GETA(第3版)の並列処理性能を生かせる PC クラスタ装置を導入した。1台は GETA を活用する実験環境構築用に、もう1台は研究参加者が GETA の高速処理を自由に活用するための連想計算サーバとして、それぞれ利用する予定である。

2. 研究実施体制

国立情報学研究所グループ

リーダー:高野明彦(国立情報学研究所ソフトウェア研究系 教授)

研究項目:連想の情報学構築を担当

東京大学グループ

リーダー:黒橋禎夫(東京大学大学院情報理工学系研究科 助教授)

研究項目:共起単語間の意味関係解析

東京工業大学グループ

リーダー:岩山真(東京工業大学精密工学研究所 助教授)

研究項目:文書クラスタリング・パッセージ解析

日立中研グループ

リーダー:丹羽芳樹(日立製作所中央研究所 主任研究員)

研究項目:連想計算実験環境の構築